

第2回 土橋自然観察教育林 連絡協議会 議事録

開催日時：平成27年12月8日（火）19：00～20：30

開催場所：厚沢部町図書館視聴覚室

出席者：安達達也(農林商工課主幹)、北川広幸（教育委員会主幹）、青柳秀和(社会教育係)、佐藤優平(社会教育係)、水本絵夢(教育林コーディネーター)、協議会員3名

議事要点

- ・平成27年度土橋自然観察教育林関係事業報告について承認
- ・平成28年度土橋自然観察教育林関係事業計画について承認

協議事項1 平成27年度土橋自然観察教育林関係事業報告

◎教育林講座開催事業について

会員 A：ヒグマの学習会はこれまでに2度行われており、初回は利用客や町民ボランティアの意識向上や研修の為に開催された。しかし2回目は春ではなく冬季に開催されたので当初の目的とはずれてしまった。その後、町内では開催されていないが、檜山振興局では毎年農林業被害防止目的で講習会を行っているようである。今回教育林講座で冬に行うとしたら、役場農林商工課との共催という可能性もあると思う。もし共催することなく広く参加を求めずに協議会のみでの開催となると、結局協議会メンバーのみの参加になってしまうのではないかと。

会員 B：自分の住んでいるところでも鹿注意の看板がいつから立っているのかなど、わからないことが多い。どのくらいの出没頻度で看板を設置するのかなど、自分達の地域の現状や変化などを知る事が出来る機会になる。なので広くクマの分布などの情報にも興味はあるが、身の回りの事を教えてもらえると、参加者も聞きやすいと思う。

水本：講師の方と相談して内容について決めたい。

安達：農家の人が意識していない事が多い。道路の標識は鹿が多くなってきており、国道で車に当る事故が何件かあったので設置した。クマも増えている。

会員 B：「どこに現れた」だけの単純な情報だけだと恐怖心をあおるだけになる。いつも獣たちがどういう時期にどんな場所に現れるかという事がわかれば、恐怖心が緩和されると思う。その上で更に危険となれば対策を。

会員 C：野生生物室は出没対応の担当ではないので、厚沢部町の状況を知りたいとおっしゃっていた。情報交換にもなれば良いと思う。

安達：シカやクマの出没や捕獲に関する情報は収集している。ある程度の情報は提出しているが、具体的な内容については報告していないので、お互い情報交換になれば良いと思う。来るか来ないかは個人次第だが、農業家の方への広報には協力できる。

◎教育林観察会開催事業について

会員 A：観察会資料の粘菌の写真は自分で撮っているのか。

水本：実体顕微鏡で自分で撮ったものと書籍から引用したものがある。

会員 A：子どもたちの興味対象は特に何か。

水本：花など動かないものよりは昆虫などに興味がある。だが、観察会でテーマを決める

と、例えば粘菌なら粘菌に夢中になるし、シダを取り上げた時その見分け方を熱心に覚えたりしていた。

会員 B：粘菌はあまり観察会等ではやる人がいない。

会員 A：道新などで取り上げてもらうといい。函館の理科の先生で研究している人がいるかもしれない。呼んでもいいと思う。

会員 C：観察会のネタなど大変だと思うので、コーディネーターとしてスキルアップの為に研修に出る機会があると思う。外部から知識を入れてきて、観察会などで披露してくれると町の為にもなるんじゃないか。

会員 B：外部に出前的に教育林の事を伝えるような活動もあると思う。

会員 A：小中学校に野外学習のようなカリキュラムの需要はないのか。十年前は函館の学校などは黒松内などに行ってそのような学習をしていた。

水本：厚沢部小で総合学習の時間にそのような野外学習を行っている。

会員 A：町外に野外学習自体を売りにしていけたらいいと思う。黒松内などは訪問してこのようなカリキュラムがありますよとアピールしていた。

会員 C：厚沢部には宿泊施設などもあるので、連動していけたらいい。

協議事項 2 平成28年度土橋自然観察教育林関係事業計画

◎教育林講座開催事業について

会員 A：コーディネーター講座について、ヒバの講座の続きで、ヒバとトドマツの遺伝資源について深く掘り下げてみてほしい。厚沢部のヒバは遺伝資源として営林署に扱われてきており、トドマツ母樹林やヒバの保護林など集団で遺伝資源を守ってきた。近年、その役目がまだあるのかなという事が曖昧になってきているので、その辺を道南試験場の方など、専門家の人はどう思っているのかを知りたい。現在の町有林としての役割はどのようなものか。今でも遺伝資源を守る役割を持っているのかという事などを知りたい。

会員 B：遺伝子としての種を保有しているということで、教育林は他にはない価値があると思う。

会員 C：トドマツ精鋭樹やヒバの種が営林署に管理されてきたが、厚沢部町や檜山の財産としてその情報を保持していた方がいい。厚沢部町より南に行くと虫が入りやすいという話もきく。木材の生産として、スギの例にもあるようにこの辺は道内でも適地の南限なのかもしれない。

会員 A：林業試験場の方も教育林には漏脂病のような病害があまりないと言われていた。

会員 C：将来的に種の情報は必要になるかもしれないので、把握しておいた方がいいと思う。

会員 A：樹下植栽で挿し穂をすることがふえているが、遺伝的に均一だと病害に弱いという事もあるので心配。そのような現状についての見解についても知りたい。

◎遊歩道の修繕事業について

会員 A：遊歩道の修繕は間に合っているか。使用者から見て歩きにくいという場所はなかったか。

水本：今年は春先に修繕して間に合った。橋の上などが滑りやすいという声が少しあったので、なんとかしていけたら。

会員 A：修繕している際に、通行止めになった期間はどれくらいか。

水本：一週間程度。

その他 懸案事項等自由討議

会員 A：策定委員会が終わってから10年が経過したが、あまり協議が進んでいないように感じる。講演会も毎年やっているが、10年たってあまり活かされていないと思う。10年の記録（別紙）を作成したので参照してほしい。毎年講演会では課題を解決するために様々な講師を呼んでいるが、講演会後もその解決を先送りにしている。問題の発生を赤字で記してある。今後学習会を企画する際にはこれまでの記録を参考にしてもらいたい。担当者が2～3年で変わってしまうので、情報をうまく受け継いでいかなければいけない。

会員 B：町有林の問題に町民が関わっていることを、役場担当者にすごく喜んでもらったことがある。なかなか参加はできないが、根底にある教育林に関わりたいという気持ちはずっとある。

会員 A：この10年間に行われた学習会の中では、2010年に北大の敷田先生を招いて行われた、地域を活かした観光についての講演会が印象に残っている。霧多布だったと思うが、僻地の湿原地帯の人びとが NPO をつくり、東京から人を呼んでシステムとして成立したという例だったが、その NPO では少人数の客にガイドを付けて、ありのままの自然にテーマを絞って案内すると言う事業を行っており、厚沢部の観光の現状とかけ離れていたためか、その後町内の人びとからはほとんど反響がなかった。しかし周辺の町からは当日大勢の参加者があり、それなりの関心を呼んでいたようだ。

会員 C：観察会でちょっと暮らしの方が来ていたことがあったが、そちらへの宣伝はしているのか。

水本：直接はしていない。その方々はご自分で広告をご覧になってきていた。

会員 C：滞在中のレジャーを探していると言っている事もあったので、宣伝してみてもいいと思う。

会員 B：桧山管内でレジャーや食事場所などを聞かれる事もあった。自分の店などにそういったものを宣伝するスポットを置くなど、協力隊の方々に提案しようと考えていたが、言う機会がなかった。地元の方が外部の方とコミュニケーションして、おすすめのものを紹介する事は意識の向上につながると思う。協議会に協力隊の方が来てくれた事もあったが、また話ができる機会があればいい。

会員 A：教育林でのモニタリングは3種類ある事を注意してほしい。ひとつは町による希少種モニタリング。次に、道庁による***（希少植物名）のモニタリング。そして3番目に、畑内川自然回復工事後の A 沢のモニタリングで、2012年の最後の工事説明会の時にモニタリングの継続が決められた。